

独立行政法人水産総合研究センターの役員報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成20年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され独立行政法人評価委員会による平成19年度の総合評価がA評価であったことを踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。

② 役員報酬基準の改定内容

理事長

理事

監事

特になし

2 役員報酬等の支給状況

| 役名 | 平成20年度年間報酬等の総額 | | | | 就任・退任の状況 | | 前職 |
|------|----------------|-------------|-------------|--------------------------------|----------|-------|----|
| | 報酬(給与) | 賞与 | その他(内容) | 就任 | 退任 | | |
| A理事長 | 千円 6,050 | 千円 3,325 | 千円 2,304 | 千円 399(地域手当) 23(通勤手当) | | 7月21日 | * |
| B理事長 | 千円 9,968 | 千円 7,051 | 千円 1,411 | 千円 847(地域手当) 660(通勤手当) | 7月22日 | | * |
| A理事 | 千円 14,904 | 千円 9,408 | 千円 4,187 | 千円 1,129(地域手当) 180(通勤手当) | | | ※ |
| B理事 | 千円 14,845 | 千円 9,408 | 千円 4,187 | 千円 1,129(地域手当) 121(通勤手当) | | | ◇ |
| C理事 | 千円 13,499 | 千円 9,408 | 千円 2,787 | 千円 1,129(地域手当) 175(通勤手当) | 4月1日 | | ※ |
| D理事 | 千円 15,290 | 千円 9,408 | 千円 4,266 | 千円 1,365(地域手当) 252(通勤手当) | 4月1日 | | ◇ |
| E理事 | 千円 10,375 | 千円 6,950 | 千円 2,229 | 千円 1,008(地域手当) 190(通勤手当) | 7月4日 | | ◇ |
| A監事 | 千円 12,578 | 千円 7,860 | 千円 3,498 | 千円 944(地域手当) 277(通勤手当) | 4月1日 | | ◇ |
| B監事 | 千円 12,690 | 千円 7,860 | 千円 3,498 | 千円 944(地域手当) 389(通勤手当) | | | *※ |

注1:「地域手当」とは、民間の賃金水準が高い地域に在勤する役員に支給しているものである。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付している。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

注3:千円未満切り捨ての関係から、平成20年度年間報酬等の総額と各内訳の合計額が一致しない場合がある。

3 役員の退職手当の支給状況(平成20年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

| 区分 | 支給額(総額) | 法人での在職期間 | | 退職年月日 | 業績勘案率 | 摘要 | 前職 |
|-----|---------|----------|---|----------|-------|--|----|
| | 千円 | 年 | 月 | | | | |
| 理事長 | 5,795 | 4 | 7 | H20.7.21 | — | 農林水産省独立行政法人評価委員会による平成19年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、退職手当の増減は行わなかった。なお、当該支給額(総額)は、当該役員の業績勘案率が決定していないため、暫定で支給した額であり、業績勘案率が決定した後に精算するものである。 | * |
| 理事 | 4,998 | 4 | 6 | H20.3.31 | — | 農林水産省独立行政法人評価委員会による平成19年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、退職手当の増減は行わなかった。なお、当該支給額(総額)は、当該役員の業績勘案率が決定していないため、暫定で支給した額であり、業績勘案率が決定した後に精算するものである。 | ※ |
| 監事 | 2,947 | 3 | 0 | H20.3.31 | — | 農林水産省独立行政法人評価委員会による平成19年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、退職手当の増減は行わなかった。なお、当該支給額(総額)は、当該役員の業績勘案率が決定していないため、暫定で支給した額であり、業績勘案率が決定した後に精算するものである。 | * |

注1:「摘要」欄には、独立行政法人評価委員会による業績の評価等、退職手当支給額の決定に至った事由を記入した。

注2:業績勘案率未決定のため、「-」と表記した。

注3:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付している。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

第2期中期計画における職員の人事に関する計画に基づき、各業務部門間での人事の交流を含む適切な職員の配置により、業務運営の効率的、効果的な推進を行い、中期計画の人件費の見積りの範囲内で人件費の管理を行っている。

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

独立行政法人通則法第63条第3項に基づき、一般職の職員の給与に関する法律の適用を受ける国家公務員の給与、民間企業の従業員の給与、業務の実績及び基本方針その他の事情を考慮し決定している。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

職員の勤務成績等に応じて、昇給及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

| 給与種目 | 制度の内容 |
|--------------|---|
| 俸給:昇給 | 毎年1月1日に、同日前1年間におけるその者の勤務成績に応じて行う。5段階の勤務成績の区分ごとの昇給号俸数は、A(極めて良好)で8号俸以上、B(特に良好)で6号俸、C(良好)で4号俸、D(やや良好でない)で2号俸、E(良好でない)は昇給なし。ただし、管理職層は、C(良好)を3号俸昇給に抑制。さらに、研究開発職員俸給表の適用職員にあつては、顕著な研究業績を挙げたと認められる場合等には、特別な昇給を実施することができる。 |
| 賞与:勤勉手当(査定分) | 職員の勤務成績に応じ、150/100(特定幹部職員にあつては、190/100)を超えない範囲内において成績率を決定し、俸給等の月額にこれに乗ずることにより勤勉手当を支給。 |

ウ 平成20年度における給与制度の主な改正点

特になし

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

| 区分 | 人員 | 平均年齢 | 平成20年度の年間給与額(平均) | | | |
|---------|-----|------|------------------|-------|--------|-------|
| | | | 総額 | うち所定内 | うち通勤手当 | うち賞与 |
| 常勤職員 | 837 | 43.6 | 7,565 | 5,577 | 98 | 1,988 |
| 事務・技術 | 256 | 41.6 | 6,301 | 4,621 | 115 | 1,680 |
| 研究職種 | 455 | 45.9 | 8,586 | 6,352 | 113 | 2,234 |
| 船舶職員(一) | 49 | 45.3 | 7,925 | 5,777 | 20 | 2,148 |
| 船舶職員(二) | 77 | 35.8 | 5,503 | 4,047 | 7 | 1,456 |

注:代表的職種以外の職種の説明

船舶職員(一):一般職の職員の給与に関する法律別表第5イ 海事職(一)に相当する職種であり、調査船に乗り組む士官で、調査船運航業務及び乗船調査員の調査補助業務等を行う。

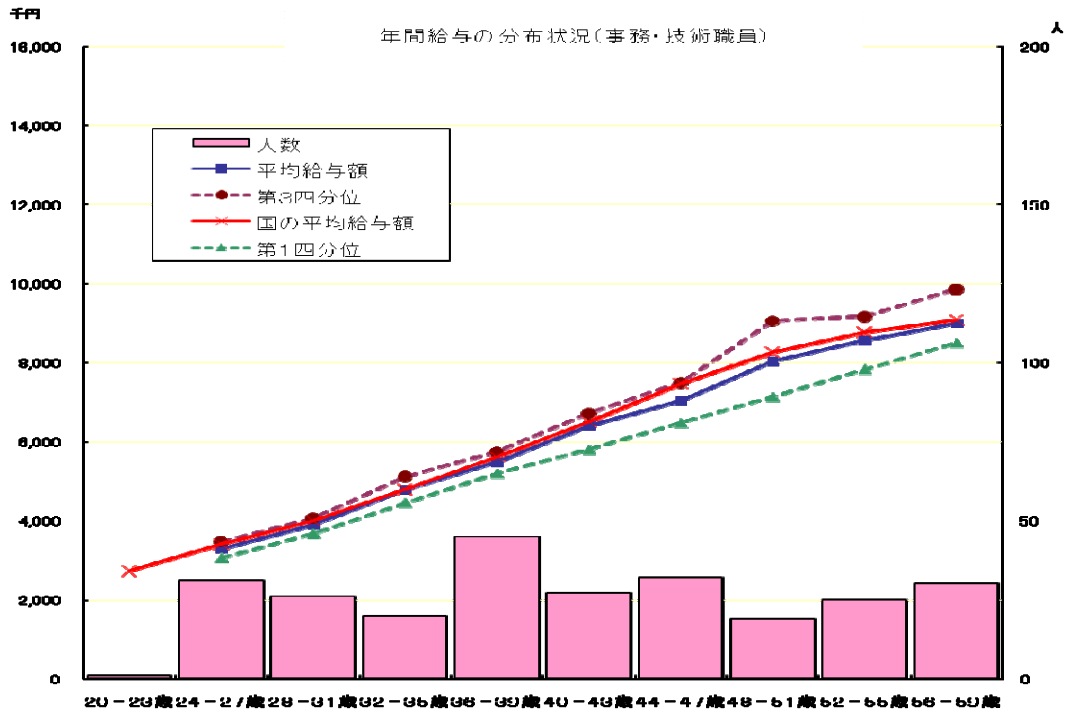
船舶職員(二):一般職の職員の給与に関する法律別表第5ロ 海事職(二)に相当する職種であり、調査船に乗り組む部員で、調査船運航業務及び乗船調査員の調査補助業務等を行う。

| | | | | | | |
|-------|-------|------|-------|-------|-----|-------|
| 在外職員 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 3 | 51.8 | 7,710 | 6,016 | 0 | 1,694 |
| 任期付職員 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 11 | 35.9 | 6,189 | 4,819 | 118 | 1,370 |
| 事務・技術 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 該当者なし | | | | | |
| 研究職種 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 11 | 35.9 | 6,189 | 4,819 | 118 | 1,370 |
| 再任用職員 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 該当者なし | | | | | |
| 事務・技術 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | | | | | | |
| 研究職種 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | | | | | | |
| 非常勤職員 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 73 | 44.7 | 2,747 | 2,747 | 143 | 0 |
| 事務・技術 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 66 | 45.7 | 2,715 | 2,715 | 140 | 0 |
| 研究職種 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 7 | 35.2 | 3,046 | 3,046 | 163 | 0 |

注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 区分中における、「医療職種(病院医師)」、「医療職種(病院看護師)」及び「教育職種(高等専門学校教員)」の各職種については、該当がないため省略した。

②年間給与の分布状況(事務・技術職員/研究職員)[在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。]

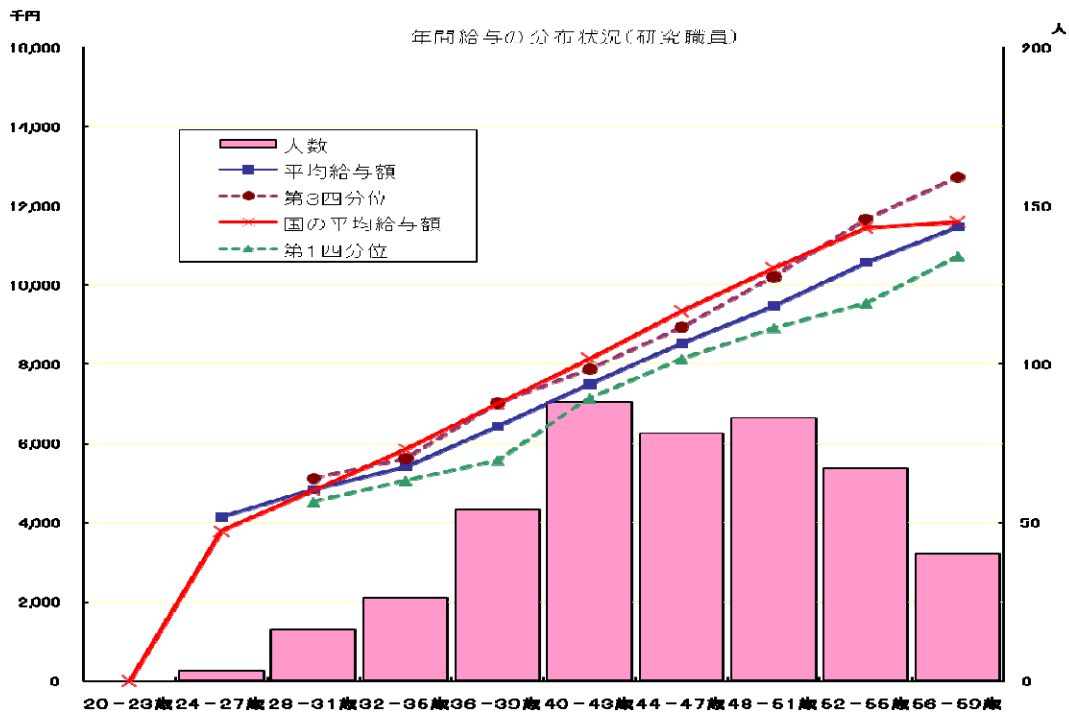


注:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

注 年齢20～23の該当者は1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均給与1: 額及び第1・3分位については表示していない。

(事務・技術職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | | 平均 | 四分位 | |
|-------------|----|------|-------|-------|-------|-----|------|
| | | | 第1分位 | 千円 | | 千円 | 第3分位 |
| 本部課長 | 8 | 50.9 | 8,902 | 9,363 | 9,608 | | |
| 本部係員 | 16 | 28.8 | 3,218 | 3,609 | 3,952 | | |



注: 年齢24~27の該当者は3人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・3分位については表示していない。

(研究職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | | |
|-------------|-----|------|-------|-------|--------|
| | | | 第1分位 | 第3分位 | |
| | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 本部課長 | 22 | 50.6 | 9,031 | 9,805 | 10,350 |
| 主任研究員 | 199 | 44.5 | 7,397 | 8,013 | 8,529 |
| 研究員 | 87 | 36.5 | 5,065 | 5,561 | 5,969 |

③ 職級別在職状況等(平成21年4月1日現在)(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 |
|----------------|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 標準的な職位 | | 係員 | 係員 | 係長 | 係長 | 課長補佐 |
| 人員 (割合) | 256人 | 30人 (11.7%) | 37人 (14.5%) | 90人 (35.2%) | 52人 (20.3%) | 13人 (5.1%) |
| 年齢(最高～最低) | | 28歳 ～ 22 | 37歳 ～ 27 | 58歳 ～ 31 | 59歳 ～ 40 | 57歳 ～ 37 |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | 2,885千円 ～ 1,829 | 3,971千円 ～ 2,460 | 5,075千円 ～ 3,254 | 7,139千円 ～ 4,313 | 7,290千円 ～ 5,402 |
| 年間給与額(最高～最低) | | 3,823千円 ～ 2,501 | 5,184千円 ～ 3,370 | 6,723千円 ～ 4,496 | 9,403千円 ～ 6,095 | 9,646千円 ～ 7,282 |

| 区分 | 計 | 6級 | 7級 | 8級 | 9級 | 10級 |
|----------------|---|------------------------|------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 標準的な職位 | | 課長 | 部長 | 部長 | 所長 | 所長 |
| 人員 (割合) | | 27人 (10.5%) | 5人 (2.0%) | 2人 (0.8%) | 0人 (0.0%) | 0人 (0.0%) |
| 年齢(最高～最低) | | 59歳 ～ 42 | 59歳 ～ 50 | | | |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | 8,219千円 ～ 5,496 | 8,437千円 ～ 7,015 | | | |
| 年間給与額(最高～最低) | | 10,938千円 ～ 7,732 | 11,414千円 ～ 9,424 | | | |

注:8級における該当者が2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(研究職員)

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 | 6級 |
|----------------|------|--------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|--------------|
| 標準的な職位 | | 研究員 | 研究員 | 主任研究員 | 研究課長 | 研究部長 | 所長 |
| 人員 (割合) | 455人 | 0人 (0.0%) | 78人 (17.1%) | 165人 (36.3%) | 130人 (28.6%) | 82人 (18.0%) | 0人 (0.0%) |
| 年齢(最高～最低) | | | 44歳 ～ 26 | 59歳 ～ 35 | 59歳 ～ 43 | 59歳 ～ 46 | |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | | 5,644千円 ～ 2,917 | 7,577千円 ～ 4,668 | 9,172千円 ～ 5,845 | 9,962千円 ～ 7,282 | |
| 年間給与額(最高～最低) | | | 7,112千円 ～ 3,988 | 9,839千円 ～ 6,489 | 11,880千円 ～ 7,827 | 14,039千円 ～ 9,969 | |

④ 賞与(平成20年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|----------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理 職員 | 一律支給分(期末相当) | % 59.1 | % 64.3 | % 61.8 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 40.9 | % 35.7 | % 38.2 |
| | 最高～最低 | % 50.4～33.4 | % 39.7～30.5 | % 45.1～31.9 |
| 一般 職員 | 一律支給分(期末相当) | % 64.6 | % 68.3 | % 66.5 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 35.4 | % 31.7 | % 33.5 |
| | 最高～最低 | % 42.1～24.2 | % 38.9～28.3 | % 36.8～27.7 |

(研究職員)

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|----------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理 職員 | 一律支給分(期末相当) | % 58.6 | % 59.9 | % 59.3 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 41.4 | % 40.1 | % 40.7 |
| | 最高～最低 | % 50.0～32.3 | % 51.0～29.4 | % 46.4～30.8 |
| 一般 職員 | 一律支給分(期末相当) | % 64.7 | % 68.4 | % 66.6 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 35.3 | % 31.6 | % 33.4 |
| | 最高～最低 | % 44.6～31.5 | % 40.2～28.7 | % 41.3～30.2 |

⑤ 職員と国家公務員及び他の独立行政法人との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／研究職員)

対国家公務員(行政職(一))

97.4

対他法人(事務・技術職員)

91.1

対国家公務員(研究職)

92.7

対他法人(研究職員)

92.3

注：当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他法人」においては、すべての独立行政法人を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

| 項目 | 内容 | |
|---------------|---|------------|
| 指数の状況 | 対国家公務員 97.4 | |
| | 参考 | 地域勘案 101.7 |
| | | 学歴勘案 98.6 |
| 地域・学歴勘案 101.7 | | |
| 給与水準の適切性の検証 | 【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 86.8% (国からの財政支出額24,701,281千円、支出予算の総額28,472,000千円：平成20年度予算) | |
| | 【検証結果】 比較指数は97.4であり、給与水準は適切である。 | |
| 講ずる措置 | 【累積欠損額について】 なし | |
| | 【検証結果】 該当無し | |

III 総人件費について

| 区分 | 当年度 (平成20年度) | 前年度 (平成19年度) | 比較増△減 | | 中期目標期間開始時(平成18年度)からの増△減 | |
|---------------------|-----------------|-----------------|-----------|----------|-------------------------|----------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | (%) | 千円 | (%) |
| 給与、報酬等支給総額 (A) | 7,565,401 | 7,813,435 | △ 248,034 | (△ 3.2%) | △ 163,456 | (△ 2.1%) |
| 退職手当支給額 (B) | 828,337 | 653,742 | 174,595 | (26.7%) | 408,749 | (97.4%) |
| 非常勤役職員等給与 (C) | 1,201,938 | 1,082,236 | 119,702 | (11.1%) | 135,129 | (12.7%) |
| 福利厚生費 (D) | 1,113,362 | 1,118,576 | △ 5,214 | (△ 0.5%) | 7,952 | (0.7%) |
| 最広義人件費 (A+B+C+D) | 10,709,038 | 10,667,989 | 41,049 | (0.4%) | 388,374 | (3.8%) |

注：当年度決算書の附属明細書における「報酬又は給与支給額」には、知的財産権実施補償金 718千円及び独立行政法人国際協力機構の依頼により海外派遣した職員に係る同機構からの人件費補填額 876千円を含めているため本表の「給与、報酬等支給総額」とは一致しない。

総人件費について参考となる事項

- ① 当年度(平成20年度)の「給与、報酬等支給総額」は、7,565,401千円であり、前年度(平成19年度)に対して3.2%の減額、基準年度(平成17年度)に対しても2.1%の減額となった。
- また、当年度の「最広義人件費」については、10,709,038千円であり、前年度に対して0.4%の増額となった。これは、定年退職者の増加による退職手当の増加が主な要因となっている。
- ② 人件費については、第2期中期計画において、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)及び「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、5%以上の削減(退職金及び福利厚生費(法定福利費及び法定外福利費)を除く。また、人事院勧告を踏まえた給与改定部分を除く。)を行うとともに、国家公務員の給与構造改革を踏まえて、職員の給与について必要な見直しを進めることとしている。

平成21年度以降、定年退職者に対する新規採用抑制により、平成22年度末には5%以上の削減計画を確実に達成することとしている。

総人件費改革の取組状況

| 年 度 | 基準年度 (平成17年 度) | 平成18 年度 | 平成19 年度 | 平成20 年度 |
|--------------------|----------------------|------------|------------|------------|
| 給与、報酬等支給総額 (千円) | 7,667,558 | 7,643,305 | 7,705,019 | 7,447,094 |
| 人件費削減率 (%) | | △ 0.3 | 0.5 | △ 2.9 |
| 人件費削減率(補正值) (%) | | △ 0.3 | △ 0.2 | △ 3.6 |

注1: 「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。

なお、平成18年、平成19年、平成20年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%、0%である。

注2: 競争的研究資金又は研究開発独立行政法人の受託研究若しくは共同研究のための民間からの外部資金又は国からの委託費及び補助金により雇用される任期付職員、運営費交付金により雇用される任期付研究者のうち、国策上重要な研究課題(第三期科学技術基本計画(H18.3.28閣議決定)において指定されている戦略重点科学技術をいう。)に従事する者及び若手研究者(平成17年度末において37歳以下の研究者をいう。)を削減対象人件費の範囲内から除いているため、Ⅲ表の「給与、報酬等支給総額」と削減対象人件費の金額とが異なることとなる。

注3: 注2の任期付研究者及び任期付職員の人件費を総人件費改革に係る削減対象人件費の範囲から除く前の「給与、報酬等支給総額」(削減対象人件費)は、基準年度(平成17年度)7,729,554千円、平成18年度7,728,857千円、平成19年度7,813,435千円であった。

IV 法人が必要と認める事項

特になし